

地名標準化の現状と課題

地名データベースの構築と
地名標準化機関の設置に向けて

2022.12/18(日)

13:00-17:00

参加無料

定員
300名

オンライン開催 (どなたでも参加いただけます)

事前にリンク先よりご登録をお願いいたします。

https://ritsume.ac.jp.zoom.us/join/register/WN_nOOZmlwzS4GaYqgkm1dlhw



近年、国民生活に深く関わる地名をめぐって、様々な問題が発生している。とりわけ、メディアや学校教育、あるいは外国人観光客の増加に対応した地名の外国語表記の不統一の問題が顕在化している。また、社会のデジタルトランスフォーメーション (DX) が展開する中で、公的機関等で登録・公開され、様々な場面で参照される住所データの扱いも議論され始めている。さらに、人文・社会科学に期待される総合知の実現においても、現在そして過去の地名・住所を含めた地名データベース (地名辞書) は、学術の基盤情報の1つとして位置付けられる。

加えて、各国の地名標準化の国際的な規範について助言する機関である国連地名専門家グループ (UNGEGN) では、地名の商業化回避、現地以外から与えられた地名であるエキゾニムの使用や地名の文化的価値などが議論されている。しかし、わが国には、このような地名に関する国内そして国際的な問題に対応できる機関や研究組織が実質的には存在していない。そこで、本公開シンポジウムでは、日本における地名の標準化をめぐる課題を明らかにするとともに、その対応策を検討する。

主催：日本学術会議地域研究委員会地域情報分科会・
地球惑星科学委員会 IGU 分科会

共催：科学研究費補助金(挑戦的(開拓))「学際的な研究基盤となる日本の「GIS 地名辞書」の開発に関する地理学的研究」(研究代表者 矢野桂司)

後援：地理学連携機構、公益社団法人日本地理学会、一般社団法人人文地理学会、一般社団法人地理情報システム学会、日本地図学会

お問い合わせ先：日本学術会議地域研究委員会・地域情報分科会委員長
矢野桂司(立命館大学) yano@lt.ritsume.ac.jp



「大日本道中細見記」BL_01_0098 大英図書館所蔵

《総司会》矢野桂司 (立命館大学文学部教授 日本学術会議第一部会員)

山田育穂 (東京大学空間情報科学研究センター教授)

- | | |
|-------|---|
| 13:00 | 趣旨説明
岡本耕平 (愛知大学文学部教授) |
| 13:10 | 海外での地名標準化の動向
渡辺浩平 (帝京大学文学部教授 日本学術会議連携会員) |
| 13:30 | 地名の公的化のプロセス
野々村邦夫 (一般財団法人日本地図センター顧問) |
| 13:50 | 地方自治における地名をめぐる諸課題
荒見玲子 (名古屋大学大学院法学研究科教授) |
| 14:10 | アドレス・ベース・レジストリの推進について
平本健二 (デジタル庁データ戦略統括) |
| 14:30 | 休憩 |
| 14:40 | 地名から見る地域の歴史と漢字表記の課題
狩俣繁久 (琉球大学名誉教授 日本学術会議連携会員) |
| 15:00 | 地名の情報学とデータ駆動型研究の展開
北本朝展 (ROIS-DS 人文学オープンデータ共同利用センター センター長) |
| 15:20 | 教科書における地名表記
本田智比古 (帝国書院編集部企画室課長) |
| 15:40 | 規範なき地名の取扱いとその影響
今尾恵介 (著述業) |
| 16:00 | 休憩 |
| 16:10 | 総合討論
〈司会〉高木彰彦 (九州大学名誉教授) |
| 16:50 | 閉会挨拶
春山成子 (三重大学名誉教授 日本学術会議第三部会員) |
| 17:00 | 閉会 |